

特定非営利活動法人
日本再生プログラム推進フォーラム



団体概要・活動記録

2014年9月

1. ご挨拶

NPO 法人日本再生プログラム推進フォーラム

理事長 藤原直哉

平素は、認定非営利特定活動法人日本再生プログラム推進フォーラム（NSP）の活動にご理解、ご協力、ご参加いただきまして、大変ありがとうございます。理事長として厚く御礼申し上げます。当 NPO は民衆の力で日本の再生を推進すべく 10 年前から活動を続けています。観光立国、新しい農業を政府の政策に押し上げたのは当 NPO ですし、近年では政府、大企業が加速度的に機能不全状態に陥っていくなかで、党利党略、目先の政策を超えた日本再生の根本戦略を堂々と提案し、また地域、産業、立場ごとに分断された民衆をヨコにつなげて日本再生のひな形を各地で各様に創出し、やればできる、どうすればよいのかについて民衆に理解と啓蒙を広げることを中心に活動しています。

日本はご承知のように少なくとも石器時代から人が連綿と住み続けています。それは仏教や漢字、そして官僚制度などが輸入されるはるか前からのことで、元来日本という国は民衆がその地域ごとの自然風土を生かし、統治されることなく自ら治めるという自然自治を国柄の中核としています。そのため民衆の自然自治を離れて強権的な政治が行われたり、民衆の生活を一気に改変するようなことをすると国が乱れて、かえって国力は衰退します。ですから常に日本の本格的な立て直しとは太古の昔から続く日本の政治の基本を取り戻し、原点に立ち返って民衆の力で地域から自発的に人々を行動させていくということです。

当 NPO が取り組んできた観光立国、新しい農業はまさにそうした戦略の具体例であり、それが今日非常に力強く全国各地で広がっているということ自体、依然として今の日本は連綿と続く歴史の大道のなかにあるということの証明です。ですから現在当 NPO もこうした民衆レベルでの日本再生を加速させるために必要となる戦略的な諸問題について集中的に各研究会で研究を重ね、また多くの人たちに当事者として参加していただき、再生に実感を持ってもらい、そして広くそうした活動の成果を啓蒙していくようにしています。

今年度当 NPO は税法における認定 NPO となり、ご寄付が個人でも法人でも控除の対象になりました。おかげさまで多くのおみなさんに浄財をご寄付いただき、活動を続けております。特に今年度は以前から計画していた NSP 投資銀行研究会を具体的に発足し、また製造業の再生あるいはメンタルヘルスの面においてさらに踏み込んだ活動を広げました。さらに今年は各研究会を超えて合同研究会ということで全メンバーが参加できる機会も増やし、各研究会で培ったノウハウや人脈、思いをさらに広く交流できるようにしました。

非常に閉塞感の高い世の中で意識の高い人々を数多く日々の研究会に集めることはなかなか大変ですが、当 NPO はその業績をソーシャルメディアなどを通じて積極的に公開していて、それらを見て当 NPO の活動を興味深く見ている人々はたくさんいます。やはり日本再生のひな形としての役割を担っていると日々認識しています。そしてこれだけ広範囲に日本再生全般の戦略を統一的に考えて研究啓蒙活動を行っているのは当 NPO だけだと思います。

来年度は引き続き従前の研究会活動を継続発展させるとともに、金融市場や国際情勢を見ても急激な秩序の変化が鮮明ですので、それに歩調を合わせてより具体的な行動を進める機会を見つけないかと思えます。どうぞみなさんでこの日本を再生してまいりましょう。

2. NPO 法人日本再生プログラム推進フォーラム団体紹介

<正式名称> 特定非営利活動法人日本再生プログラム推進フォーラム (通称：NSP)

<事務所・事務局連絡先>

主たる事務所: 東京都墨田区両国 3-25-5 JEI 両国ビル 3 階

事務局連絡先: TEL:03-3633-8631 FAX:03-5625-3672, staff@nipponsaisei.jp

<発足・設立> 平成 15 年 10 月 16 日

<登記>

平成 15 年 10 月 16 日 内閣府認証 NPO 法人登記 (会社法人等番号 : 0210-05-006588)

平成 25 年 11 月 13 日 認定 NPO 認定通知書の番号「25 生都管第 2083 号」

<役員構成> 2014 年 9 月 1 日現在

理事長 藤原直哉 (経済アナリスト、株式会社あえるば 会長)

理事 榎本恵一 (榎本税務会計事務所 所長)

理事 鬼澤慎人 (株式会社ヤマオコーポレーション 代表取締役)

理事 永井洋子 (永井洋子税理士事務所 所長)

理事 三上靖彦 (株式会社ミカミ 代表取締役)

理事 山口直彦 (フルハシ EPO 株式会社 代表取締役)

監事 小川修 (長瀬産業株式会社 テクノロジーオフィサー)

事務局長 永井洋子

相談役 熊谷弘 (当 NPO 前理事長)

相談役 高橋栄作 (当 NPO 前事務局長)

<会員情報> 会員総数: **451 名** 2014 年 9 月 1 日現在

<活動の基本構想>

NPO 法人日本再生プログラム推進フォーラム(通称：NSP)では、わが国の経済が「内需中心の持続的経済成長によって」活性化するためには、新しい思想と技術のもとに日本の都市計画を抜本的に作り直し、まったく新しい日本の都市と田舎を作り直すことが必要だと考えています。そしてその過程で生まれる 21 世紀の新しい技術やノウハウ、製品が国際競争力の源となり、持続的な内需中心の経済成長の根源的エネルギーになると考えています。同時に日本各地固有の産業とライフスタイルを大いに振興させて、あらゆる地域の活力がみなぎらなければならないと考えます。

私たちは、日本の経済を活性化させるために、内需中心に十分に雇用があり、地方の繁栄、高齢化への対処、国際競争力の向上、温暖化問題への対処が同時に達成できるまったく新しい経済の枠組みを創造し、提言することを通じて、日本全体のあらゆる活力を高めるための活動を実践しています。

3. 活動方針

NSP の目指す日本経済の再生をひとことでいえば、「温故知新で生まれる 21 世紀の経済」です。それを実現する戦略をひとことでいえば、「戦略的低エネルギー社会の実現」です。

NSP ではかつて、日本経済再生の**具体的戦略**として**観光立国、新しい農業を提案**し、実際にそれが政策となって今や日本全国に観光と農業の新しい動きが広がっています。今回は、それらを**統合した本格的な提案**として日本経済の再生を**総合的かつ戦略的**に行っていきます。

< 具体的活動方針 >

1. 健康で持続可能なライフスタイル（ロハス）を広く浸透させることで戦略的低エネルギー社会を日本で実現し、それを基盤にした 21 世紀の偉大なる共生社会を構築するためのさまざまな研究、実践、政策提言
2. そうした新しい日本を創るために必要となる戦略的なポイントを各研究会によって深く掘り下げて研究し、未来を創造するひな形を創る
3. 健康で持続的なライフスタイルの構築を目指す人々や諸団体との連携
4. こうした成果を広く世の中に啓蒙するための勉強会、講演会、見学会、芸術活動の実施
5. インターネット放送を活用して健康と持続可能性の高い生活や仕事をしている人たちを多くインタビューして、相互の連携を強化し、新しい時代を担う人たちを浮かび上がらせる

< 活動内容 >

1. 各研究会および当 NPO の主催による勉強、研究、講演、見学会の実施
2. 芸術家との連携による芸術活動
3. 農園等を活用した健康で持続可能なライフスタイルの実践活動
4. 時局に対応した政策提言活動
5. 地方における勉強、啓蒙活動

4. 研究会

NSP 内にはより詳しく日本経済再生の具体的な方法を検討するために、各理事・監事が担当している研究会、分科会を設けています。それぞれの研究会や分科会は、単に個別の問題を検討するだけでなくに設けられたものではなくて、日本経済再生を行う上で戦略的に非常に重要になると思われる分野を抽出して設けられたものです。それぞれの研究会では、ただ学ぶだけでなく研究会参加者の実践事例などの意見交換できる場も創っていきます。

地域のひな型研究会 都市計画研究会 組織のリーダーシップ研究会 スピンアウト研究会
中小零細企業研究会 LOHAS ジャパン研究会 NSP 投資銀行研究会

また、今期は今までの各研究会の成果を踏まえて、テーマを決めて全研究会による合同研究会を開催致しました。

<地域のひな型研究会> (旧：都市計画研究会 2010年10月名称変更)

担当理事：三上靖彦

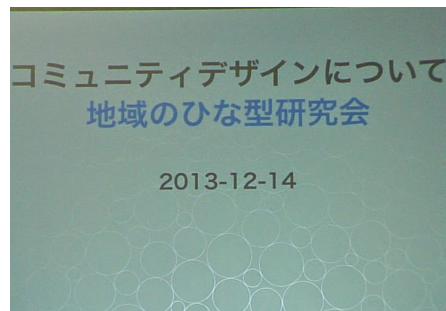
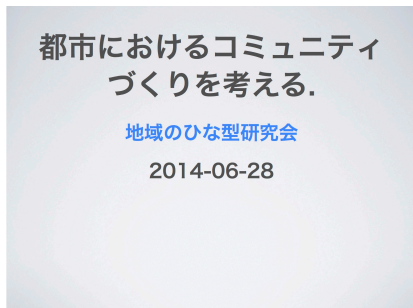
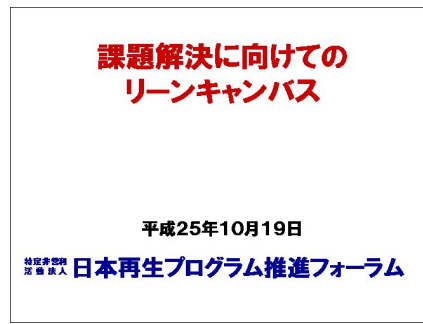
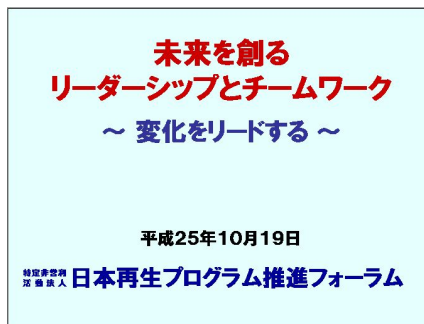
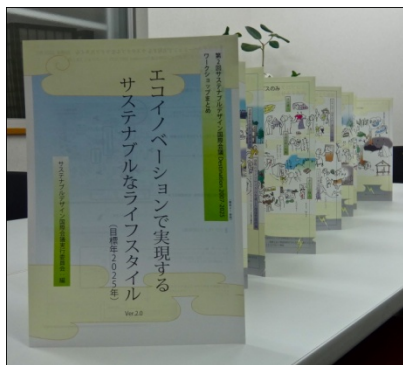
地域のひな型研究会では、「日本再生は地域から始まる」の信念のもと、第九期には日本再生の方向性としての『21世紀のまちづくり～日本再生プログラム～』を取りまとめました。また第十期ではそれぞれの地域で地域再生のために立ち上がろうとする人たちが活用できる「日本再生ツール」づくりを進め、再生イメージをビジュアルに示す『絵巻（エコイノベーションで実現するサステナブルなライフスタイル）』の普及と解説、再生チームづくりの考え方を示す『未来を創るリーダーシップとチームワーク』、地域の課題解決の方法を示す『リーンキャンバス』『構造構成主義』などを取りまとめました。そして第十一期では、ロハス研究会と連携しながらの先進事例研究・視察と、より実践的なアプローチとしての『コミュニティ・デザイン』『パーマ・カルチャー』などについての研究会を開催しました。今後、絵巻をさらに普及すべく『絵巻カレンダー』の作製に取り組むとともに、日本再生・地域再生の姿を具体的に示すイメージ図（絵）づくりを進めます。

▼研究会活動

地域のひな型研究会では、現在下記の4つについて積極的に活動しています。

- (1) 「21世紀のまちづくり」提案書のバージョンアップ、ビジュアル化（「絵」づくり）
- (2) 絵巻の普及（絵巻の販売と絵巻カレンダーの作製）
- (3) 日本再生ツールのバージョンアップと実践的アプローチの研究
- (4) 先進事例研究・視察（ロハス研究会と連携）

※毎月1回勉強会を開催中です。ぜひお気軽にご参加ください。



<都市再生研究会>

担当理事：山口直彦

環境負荷の小さい循環型社会（低炭素化社会）の建設を、環境・リサイクルや林業という切り口から考えます。また環境・リサイクルや林業によって生まれるバイオマス燃料は日本発の 21 世紀の新しいエネルギー資源として、日本の海外貢献にも役に立つと考えています。

この研究会は名古屋を拠点に活動しています。

明快な未来志向で進める都市再生。根本は『街造り』の前に、人と地球に優しい『人造り』。資源・エネルギーを、効果的に活用（カスケード利用、Reduce、Reuse、Recycle）して再生された都市は、エネルギー、食料、セキュリティの最低限の安全保障が確立される都市。ここでは、インフラを俯瞰的に眺め整備し、持続可能性、生物多様性、低エネルギーの仕組みの上に成り立ちます。その上で、今と未来が安心安全快適、つまり幸せが実感でき、人と地球に優しい街として蘇ります。

◎研究会活動

1. NSPメッセージの配信

第37回『農業への取組みオレンジサンプロジェクト（OSP）』

第42回『安心安全な食料自給から「低炭素農業」へ向けて』

第47回『身近な環境で取組むパーマカルチャーとランドスケープの実践』

第52回『輸入材に依存しない国産材利活用推進プロジェクト：

グリーンジャパンプロジェクト（GJP）』

第58回『企業活動における環境汚染・環境負荷の外部不経済と税金』

第62回『戦略的低エネルギー社会と真に豊かなライフスタイルを実現』

2. 都市再生に向けた取組み

森林・林業（林地集約化、測量、間伐など）

都市型大規模バイオマス発電施設（川崎バイオマス発電）の実践と視察

中小規模型バイオマスガス化発電システムの開発

3. 農業への取組み

稲作（愛知、三重）～イセヒカリ、黒米、緑米ほか～

パーマカルチャー＋ランドスケープデザインへの実践

4. 研究会

（1）都市再生研究会 in 名古屋

日時：2013年11/16（土）

～身近な環境で取組むパーマカルチャーとランドスケープの実践

バイオマスガス化発電＋名古屋南東部大府市・杉本さんプラネット農園を巡る～

視察場所：フルハシEPO株式会社 愛知第2工場（愛知県弥富市）

プラネット農園（愛知県大府市）

（2）第3回NSP合同研究会&第5回投資銀行研究会

日時：2014年6月7日（土）

～川崎市における再生可能エネルギー探訪／都市再生の未来を探る～

視察場所：東京電力 川崎発電所（国内最新型高効率ガスコンバインド発電）
川崎市かわさきエコ暮らし未来館（新エネ展示場とメガソーラー）
川崎バイオマス発電+ジャパンバイオエナジー（国内最大バイオマス発電）



<組織のリーダーシップ研究会>

担当理事：鬼澤慎人

1. 活動の理念

この研究会は、多くの企業・組織が常に価値を創造し、関わるすべての人を幸せにする「すばらしい経営」の実現（経営品質向上）を支援していきます。働く人たちのロイヤリティが高く、創意工夫に溢れてチームワークの良い組織を創るために求められる「リーダーシップ」について、研究と学びの場を提供していくことを目的とします。混沌とした時代を切り開き、明るく豊かな未来を創っていくには、人の才能や潜在能力を引き出し、組織に相乗効果を生み出すことのできる、効果的なリーダー・経営者をひとりでも多く育成していくことがますます必要になってきているのです。

2. 2014年度の活動

今年度も「行って、見て、聞いて、感じて、学ぶ。そして実践する」を研究会のモットーとして、昨年度はできませんでしたが、素晴らしい組織の現地現場に行く視察研修会を行いました。視察先は、今や日本国内だけでなく世界中からも視察が来ている「JR 東日本テクノハート TESSEI」。世界中がお金という動機づけ以外でも人はこんなにも生き活きと働けることに驚いた、TESSEIのスタッフのみなさんの働く様子を現場で直接見ること、そしてその実現に長年取り組んだリーダーの話を実地で聞いたことは、たくさんの気づき、学びがあったというのが参加者全員の感想です。実は我々がお邪魔した後、あまりにも視察依頼が多く、現場での業務に支障が出るということで今後は視察を受けないことになったようです。ですから今回の視察研修はより貴重なものになりました。

- ・視察研修会 4月3日（木）「JR 東日本テクノハート TESSEI」
- ・勉強会 6月14日（土）「TESSEIから学んだことは何か。それを自社にどう活かすか」

さらに、新しい価値を創造する（イノベーションを生み出す）人や組織をどう育てていくのか。組織の未来にとって非常に重要なテーマとして、元ホンダの小林三郎氏を講師にお招きして「イノベーションに強い人と組織のつくり方」をテーマにご講演いただきました。創業者である本田宗一郎氏が率いるホンダが、なぜ世の中を驚かせる新しい価値を創造することができたのか。若い人たちに徹底的に「本質」を考えさせること、ワイガヤでの話し合いによって、イノベーションが生まれる人づくり、土壌づくりをしていくホンダ流のあり方について、たっぷりとお話いただきました。実践者の言葉の迫力を強烈に感じながら、参加者は多くの気づき、学びがあったようで高い評価をいただきました。

- ・特別講演会 8月30日（日）「イノベーションに強い人と組織のつくり方」

3. これからの活動予定

日程はまだ未定ですが、学んだことは実践しようと、「ワイガヤ研修」を企画しています。できれば小林三郎氏に講師をお願いしての開催ができればと考えています。



<中小零細企業研究会>

担当理事：榎本恵一

中小零細企業研究会では、「いかに日本の中小零細企業を元気にして日本再生に繋げるか？」というテーマのもと、「ワーク・ライフ・ハピネス分科会」と「心・助っ人隊分科会」で研究を行って参りました。主に、「ワーク・ライフ・ハピネス分科会」では、中小零細企業の元気の素となる「素晴らしい経営」「素晴らしい会社」とは何か?!に迫り、「経営」や「マネジメント」についての座学や検討会と実際の企業を訪問するというスタイルで学び・研究を行っています。また、「心・助っ人隊分科会」では、まさに心の問題こそが、人間の真理でありこの問題の学びを通し、自己がまず知り、他人に対しても声かけが出来る存在を目指した活動でした。

今年より、合同研究会や他の研究会とのコラボレーションも活発になり、中小零細企業研究会も、今年から「ワークライフハピネス分科会」と「心助っ人隊分科会」の想いを一つにして活動していく指針を作り、試行錯誤をしながら皆さんと楽しく研究会を進めて来ました。

更に、「場」の提供という観点から、NSPの本店所在地である東京都墨田区に対して関係を深めていく展開も実施をし、地域の方々との意見交換やNPOとしての活動を皆様からの幅広いご意見を頂戴して参りました。

中小零細企業研究会では、「いかに日本の中小零細企業を元気にして日本再生に繋げるか？」がテーマです。今後下記のテーマを色々な角度から掘り進めていきたいと思えます。

(現在、活動中若しくは研究対象とする項目)

- ・ 下町中小零細企業の工場見学
- ・ 54歳からの起業
- ・ 心問題
- ・ アドラー心理学
- ・ 他の研究会とのコラボ
- ・ 墨田区の方々との場の共有
- ・ 映像を通じて気づきを学ぶ
- ・ Googleの活用法



<スピンアウト研究会>

担当理事：永井洋子

スピンアウト研究会は、昨今はぬるま湯というよりむしろリストラ旋風の吹き荒れる職場から抜け出して、自らの足で立ち、自らの手で事業を作り出す人材を世に送り出す役割を担う研究会です。

*研究会活動のスローガン

当研究会は、“半農半X活動”という目標を掲げての活動を4年間続けています。

○半農活動

2013年1月から黒川で80坪の農園を借りて9名のメンバーで季節の野菜作りを始めました。やたらに借りられない畑ですが、近所の栗平に住んでいる嶋崎リーダーのお母様が、地主さんの知り合いのお蔭でスムーズに借りられ、おまけに2013年の5月からは倍の広さになり、メンバーも11名に増え、子供連れのビジターの参加もあって賑わっています。嶋崎リーダーが中心となって、毎月第2土曜日に定例会を行っています。普段の野菜の手入れは、ほぼ毎朝、オートバイを駆使して彼が行っています。

2014年は昨年の失敗のリベンジで、みごとに天豆を収穫し、ナス、トマトも成功しました。採り立てがなんといってもサイコーの枝豆は、おいしく食べられる時期を長くできるように時間差で栽培することのむずかしさを味わいました。

畑活動の醍醐味は、鍬やシャベルやホーを使っての土づくりや種まきもさることながら、何と言っても採れたて野菜をその場で調理して食べることです。椅子とテーブル、テントも完備し、すばらしい環境が出来上がりました。

2014年の8月にはピザ窯が出来上がり、定例会ではピザづくりに挑戦し、焼き立てピザの美味を堪能しました。



○半X活動

2014年3月に増山晃一さんが、住まいのある川越で喫茶店Monを開業しました。毎週土曜日と日曜日に営業しています。是非お立ち寄りください。

自家焙煎珈琲 喫茶 Mon facebook ページ <https://www.facebook.com/mon.kawagoe>

また、4月には山下庸一さんが、“すこやか施療院”を開業しました。

住所は、府中市小柳町4-3-8 TEL 042-302-7667 です。

今後も続々と起業する人材を輩出する予定です。

<LOHAS ジャパン研究会>

担当：山中茂樹

LOHAS ジャパン研究会は、当 NPO が掲げる 21 世紀の文明開化による日本再生を促進し、LOHAS＝健康で持続可能な社会の実現を目指して「知って、言って、見て、会って、学び、そして実践する」をモットーに活動しています。

- 全国各地の持続可能なチャレンジや様々な取り組み（成功事例、試み、種）を集め、発信する。またそこから成功要因や課題などを検証する
- 様々な取り組みをしている方達と交流し、横につなげ世の中を変革する大きな力とする
- LOHAS な世界への関心を高める、LOHAS 層の拡大
- 新しいライフスタイル・新しいワークスタイルの研究と実践
- LOHAS な社会を実現したい人たちに対する場の提供

7/21 トランジションタウン藤野訪問ツアー

神奈川県旧藤野町で活動するトランジション藤野訪問ツアーを開催しました。トランジションタウンとは、「過度に石油などの化石燃料に依存した社会経済システム」から「自然との共生を前提とした持続可能な社会経済システム」への移行を目指した取り組みで、その活動は世界に広がっています。藤野で芸術家から始まった移住の波は、外国人の移住、パーマカルチャーの開設、オルタナティブ教育の誘致、そして 2009 年からのトランジション藤野と様々な方達の活動とともに幅広いものへと展開してきました。



LOHAS な Wikipedia = LOHASpedia

日本各地、世界各地の持続可能なチャレンジ、新しい農業、町おこし、新しい科学技術など様々な事例を収集し発信する Web サービスを開発予定です。メンバーも随時募集していますので興味がある方はいつでもお待ちしております。 <http://goo.gl/uNECTN>



<NSP 投資銀行研究会>

担当理事：藤原直哉

当研究会は以前から発足の計画を進めていましたが、今年度から具体的に活動を開始しました。そもそも日本版投資銀行とはどのようなものかといえば、「日本最高の株主」であると要約することができます。すなわち、1、長期投資がなければ国は立たない、2、市場原理だけでは長期投資は成功しない、3、投資銀行とは国家の最高の叡智を結集したものである、というもので、日本再生の根幹となる産業を国の総力を挙げて創造し、再生させていくことが日本版投資銀行の使命です。基本的に現在の政府内部あるいは産業界においてもその必要性に対する認識は広がってきていますが、実際に銀行という現在の財政、金融制度の枠内で考えてしまってなかなか根本的な理念や戦略の議論が行われていないというのが実態です。そこで当研究会では活動の初年度に当たって、どんなシステムにすればよいか、どんな投資をすればよいかという2点について有識者や産業界の人たちの話を実際に聴き、大まかな方向性をイメージできるようにする活動を開始しました。

実際に以下のように研究会を開催しました。具体的な発表内容はNSPのHPをご覧ください。

第1回 2月27日 日本版投資銀行に求められるもの

講師：三輪晴治氏、『日本経済再生論ーディストラプティブ・イノベーションの道ー』著者

第2回 3月19日「微生物活用から見えてくるこれからのイノベーション」

講師：小川修氏 長瀬産業株式会社テクノロジーオフィサー

第3回 4月20日「日本政府はなぜまちがえたのか」

講師：園山英明氏 元大蔵省証券検査官・国際資本市場ストラテジスト

第4回 5月10日「厚木で生まれた介護ロボット」

講師：浜辺俊也氏 有限責任事業組合LLPアトムプロジェクト理事

第5回 6月7日「川崎市における再生可能エネルギー探訪／都市再生の未来を探る」

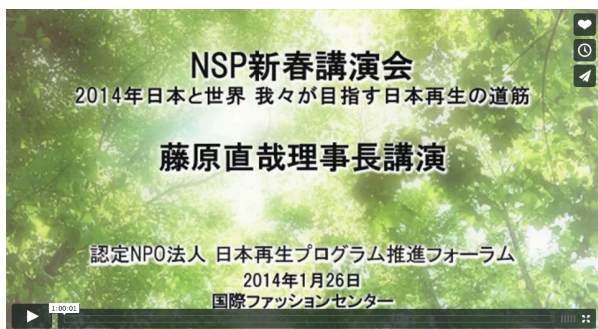
川崎市臨海部の天然ガス発電所、太陽光発電所、バイオマス発電所を見学

現在の日本は恒常的に貿易赤字を計上する状態で、根本的に未来を創造する投資が行われてこなかったために産業全体が衰退し、輸入が増えて輸出が増えないという危機的な状況に陥っています。さらにそうした産業衰退や財政の巨額の赤字は現在支配的な力を行使している国や産業界自らの衰退の反映であり、日本版投資銀行の設立やそれを軸とした新しい産業の再生は日本全体の再生と共に新しい世界のリーダーによって行われるべきものです。来年度も引き続き定期的に研究会を開催して、研究、啓蒙活動を進めていきます。

<合同研究会>

第1回 2014年1月26日 「NSP新春講演会 2014年日本と世界 我々が目指す日本再生の道筋」

我々NPO 法人日本再生プログラム推進フォーラムが目指す日本の未来・活動のビジョンを藤原直哉理事長よりお伝えするとともに、各研究会の理事と藤原直哉理事長との対話形式で研究会の活動について紹介しました。



<http://goo.gl/pLLIFO>

藤原直哉基調講演「日本と世界 我々が目指す日本再生の道筋」をはじめ、藤原理事長と各理事の対談形式による研究会の紹介の動画をHPでご覧いただけます。

第2回 2014年3月1日 「江戸職人の町を研究する ～東京銀器～」

東京の伝統産業である銀器の職人さんの世界に注目し、実際の工房を訪問して、職人・下町の個人企業の取り組みや、伝統を守りながらも革新を繰り返し脈々と受け継いでいる職人の方達が培ってきた、ものの見方・考え方、大切にしている価値観など職人さんの世界から学びました、またそこにある課題についても学び、参加者の気づきを皆様で共有しました。実際に銀器の制作体験も行いました。



第3回 2014年4月5日「春の京都 近代史から感じる日本再生」

京都でガイドマップにほとんど載らず、ひっそりとたたずむ別天地、南禅寺界隈の別荘群や伏見桃山の明治天皇陵などを訪れ、近代史の終焉と歴史から学び考える日本再生イベントを京都で開催しました。



第4回 2014年7月13日「江戸の寺町を歩く ～ 谷中町歩き～」

東京、台東区界隈の古い町では、今でも向こう三軒両隣でさりげなく助け合う暮らしの文化が生きています。それを支えてきたのが、路地や町家のつくりです。太古からの自然と江戸の寺町の面影を重ねて、明治大正昭和の生活文化、芸術文化の生きるまち、谷中。歴史を重ねた場所で、住み働き、近所づきあいをし、文化を味わう、住み続けたい町の魅力とは。谷中を散策し「まちの歴史と文化を活かす町づくり」について学びました。



<全体イベント>

<NSP 第11期総会>

2013年10月19日(土) @ 科学未来館(東京都江東区青梅)

テーマ: : 日本再生音楽祭 -民衆の音楽家集まれ! 世界を元気にする音楽-

ゲスト: ドラマー:三嶋 RACCO 光博氏と草笛リズムマシーン

内容: 第11期総会、基調講演「いよいよ本番日本再生」(藤原直哉理事長)、

日本再生音楽祭 -民衆の音楽家集まれ! 世界を元気にする音楽-

シアターブルックのドラマーとして活躍された三嶋 RACCO 光博さんをはじめ、三嶋さん率いる草笛リズムマシーンによるドラムセッション。藤原理事長らによる邦楽演奏や NSP 会員さんを中心に南信州遠山郷で活躍されている方々による遠山 BAND の皆様による演奏と歌で、ご来場の皆様方も共に歌い大変盛り上がりしました。



日本再生音楽祭

「民衆の音楽家集まれ! 世界を元気にする音楽」

<http://vimeo.com/79475716>

基調講演: 「いよいよ本番日本再生」

<http://vimeo.com/79474035>



5. ソーシャルメディア部

世界各地、全国各地の会員さんとココにつながりながら活動をしていくために、NSPではさまざまなソーシャルメディアをツールとして活用し、定期的に情報公開・活動記録・交流の場を発信しております。

<NSP ホームページ>

<http://nipponsaisei.jp/>



<Facebook ページ>

<http://www.facebook.com/nipponsaisei>



<NSP ブログ> <http://blog.nipponsaisei.jp>



<Vimeo> <http://vimeo.com/nipponsaisei>



<LOHAS ペディア>

<https://www.facebook.com/lohaspedia>



<twitter> @nipponsaisei



<お問合せ・連絡先>

NPO 法人日本再生プログラム推進フォーラム (NSP)

〒130-0026 東京都墨田区両国 3-25-5 JEI 両国ビル 3 階

TEL:03-3633-8631 FAX:03-5625-3672 E-mail:staff@nipponsaisei.jp